

第 83 回紫友まち歩き

富士山絶景巡り

今回は、富士山の絶景を足元から眺める、平場トレッキングです。しかし、この異常な天候のせいか、雨の可能性もある晴れ時々曇りの中でのまち歩きになりました。富士宮駅に集合して途中までバス移動、そこから下りの歩きで、熱中症を気にしながらのまち歩きとなりました。

なお、今回は案内人の奥さん（018）がレンタカーで付き添ってくれた。熱中症対策、足の弱い人対策、荷物運びなど介護への考慮も十分でした。これで安心！

日時：2018年8月4日(土)

集合時間：8月4日12時

集合場所：JR富士宮駅 改札前

参加者：17名参加

案内人：柴田、小林017

懇親会：北口和風料理「柚子（ゆず）」

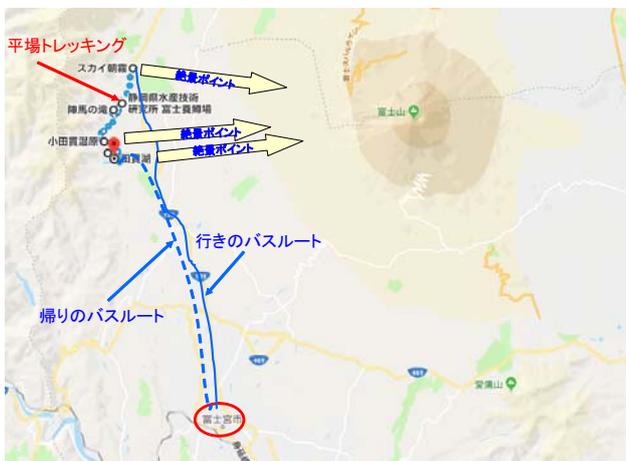
懇親会参加者：17名

歩いた歩数：15,000歩（武馬025Hの歩数計）

■まち歩き行程

北口バスターミナル2番・富士山駅行き→朝霧高原・絶景ポイント1→富士養鱒場→陣馬の滝→【東海道自然歩道】緩い登り・木陰→小田貫湿原・絶景ポイント2【ボード・ウオーク】→【東海道自然歩道】→田貫湖・絶景ポイント3→田貫湖南バス停→富士宮バス停着→懇親会

コース概要：



↑67m・↓211m



<スタート>

写真を見ながら楽しんでください。

① 北口バスターミナル2番・富士山駅行き：

12時集合に合わせて、各自富士宮駅に来る。早めに来て富士山本宮浅間大社に行った人や、富士宮名物の焼そばを食べる人、早くもビールを飲む人もいた。



案内人二人は懇親会場の手配をする。魚のつまみ中心に2,000円をお願い。飲み物代は別。



新富士から来るバスは10分ほど遅れる。座れるか心配であったが、だれも乗っていなかったため、全員座れた。海外から若い2名の女性が乗ってきた。関心を持った男性がいたという。バスはここからひたすら富士山裾野を上っていく。雲が富士山を隠しているようで、右手には富士山が見えない。

② 朝霧高原・絶景ポイント1：

バスは予定より15分も遅れて到着。バスを降りると、どっちが富士山と聞く。富士山は雲に隠れている。案内人は、本日の「絶景」とは「富士山の景観が絶えて見ることのできないということ」と苦し紛れに言う。それを聞いていた一同は絶句する！ 東の方向にかすかな富士山の形が見えないかとジーと見る人もいる。上が今日の絶景、下が下見の時の絶景。なお、下見は案内人二人で5月1日に実施。



③ 養鱒場：

県道414をだらだらと下っていく。途中それほど汗もかかなかった。ナナフシが木から落ちてきたと、目ざとく捕まえ見せてくれる人あり。



富士養鱒場は、70歳以上が無料。一名が正規料金300円を払う。ニジマスの養殖をしていて、1, 2, 3年の大きさのニジマスがたくさん泳いでいた。ニジマス釣りの人たちもいた。



集合写真を撮る。



<解説>

ニジマスは北アメリカ太平洋岸の河川原産で、明治10年に卵で初めてアメリカより移入された魚です。その後日本でも採卵・ふ化が可能になり、大正15年には当時の政府が積極的にニジマスの養殖を奨励し、産業的に確立されました。静岡県でもニジマス養殖を産業化するため国内では3番目の県営養鱒場として、富士箱

根伊豆国立公園内の富士山西麓、海拔約700メートルの朝霧高原に昭和8年に富士養鱒場を開設しました。当地は、年間を通じ水温10℃の湧水が得られ、芝川の水源になっています。

④ 陣馬の滝：

県道414をさらに20分ほど下っていく。ワサビの看板飾りがある。水がきれいなので冷たいので、ワサビを作っているようだ。欲しいとお店の方に行くが、残念ながら生わさびは売っていなかったようだ。「ワサビみそ」をゲットした人からは、きゅうりにつけると最高だったとの報告があった。

陣馬の滝は、夏休みの土曜のため大賑わい。



滝のそばまで行くには、流れる川を越さなければいけない。数名がたどり着く。そこは冷気が広がっていた。気持ちよい。



滝つぼに入る子供は寒い・冷たいとすぐに出てくる。子どもの背中をさわらせてもらって、肌の感触に感動していた女性参加者もいた。

岩の割れ目から富士山からの水が滝のように落ちてきている。

<解説>

五斗目木川にかかる滝で、上流からの水の流れと、溶岩層のすき間から湧き出す水が滝をなしている。「陣馬

の滝」という名は源頼朝が行った富士の巻狩りの際、滝の近くに一夜の陣を敷いたことから名づけられた。

⑤【東海道自然歩道】緩い登り・木陰：

ここから緩い登りになる。木陰であるので陽は刺さないが、登りのため体力を使い、汗が出てくる。



ここでも同じ人がナナフシを捕まえる。やっと登りきるが体力を消耗した。東海道自然歩道と言っているが、トラックも入ってくる。途中、道を川が流れている。石の上を歩くか、川の流れているところを歩くか、半々のようでした。



⑥ 小田貫湿原・絶景ポイント2【ボード・ウオーク】：

小田貫湿原のボード・ウオークを楽しむ。湿原のため、涼しい風が吹いてきて気持ちよい。

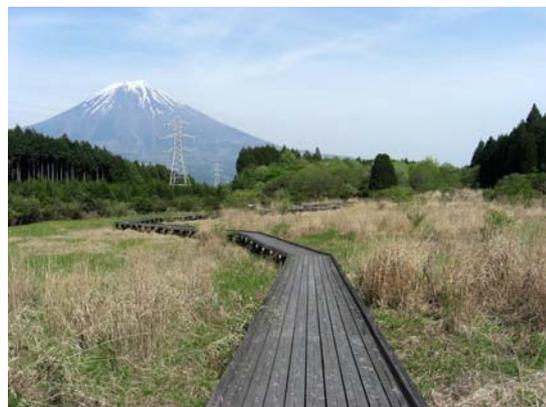


あそこに富士山が見えるはずだったのにと案内人が指をさす。雲しか見えない。湿原にはいろいろの種類のトンボがいる。青いトンボが珍しかった。

四阿でやっとしばしの休憩が取れた。



上が今日の絶景、下が下見の時の絶景。



<解説>

富士山の南側麓の高原地帯に見られる湿原です。約120を超える池が周囲には点在しており、四季折々の湿原植物を始め、トンボやチョウなどの生き物も数多く見られる自然満載のスポットです。

⑦田貫湖・絶景ポイント3:

東海道自然歩道をさらに15分ほど歩くと、田貫湖が見えてきた。向こうの空は今にも雨が降りそうな黒い雲が出てきている。



田貫湖ではヘラブナ釣りの人たちが湖岸で釣り糸を垂らしている。釣った人は25 cm程の魚をリリースしている。



オニヤンマが通りかかった目の前で丁度脱皮してゆらゆらしていた。見ている人に驚いてふらーと下の草原に落ちたそうだ。多分その後、飛んで行ったことでしょう。素晴らしく大きく、綺麗だったと感激した人が教えてくれた。



さらに田貫湖畔の遊歩道を歩いて行くと、石の柵にセミの抜け殻のようなものが二つ付いているのを案内人が見つける。とってみると、どうもその形からはセミの抜け殻ではない。セミがこんな湖沼沿いの石の柵で抜け出すことはないのにと不思議がっていると、これはオニヤンマの抜け殻だと教えてくれた。今回も写真に撮ってくれていた。田貫湖畔には次々と抜け殻が見

つかったので、ここはトンボ好きにはたまらないという。



展望台で集合写真を撮る。富士山を後で貼り付けようというスペースを右上に残す。



富士山も見えないので、あまり奥の方にはいかず、バス停に向かうことにした。



次が今日の絶景、右側が下見の時の絶景。



<解説>

断層活動により隆起した古富士泥流の窪地を拡大させて形成された人造湖で、富士山の西麓・朝霧高原の一角に位置する。元々は狸沼あるいは田貫沼と呼ばれていた小さな沼地であったが、1923年に発生した関東大震災の影響で、周辺の水の供給を賄っていた芝川の水量が減少したことから、農業用水を確保するために1935年（昭和10年）から狸沼に堤防を建設し始め、沼を人工的に拡張。これにより706,000m³の貯水ができる人造湖となった。その後も水の需要増加に応じて堤防の拡張工事を行い、東西1km、南北0.5kmの大きさになり、貯水量が1,200,000m³にまで増えた。

⑧田貫湖南バス停：

少し早いが遅れるよりは、待っていた方が安心と歩き始める。レンタカーは大活躍。何回か往復して、バス停まで送ってくれている。歩ききった人は男性がほとんど。バス停の案内は一か所にしかない。バス停の案内を見ると反対側で待っていてと書かれている。



のんびりと会話をしながらバスが来るのを待つ。

⑨富士宮バス停着：

バスが来た。来るときに一緒になった、海外から若い2名の女性が乗っていた。



冷房がギンギンに効いている。冷房の風が当たる体の部分は、凍り付くようだ。しばし耐える。富士宮の町はお祭りのために道路が渋滞している。10分ほど遅れる。

⑭懇親会：

バスが少し遅れたが、約束の17:20に「柚子」に入ることができた。座敷の椅子席（うれしい）に17名が座り、まずビールなどの飲み物を頼む。



魚中心のメニューには満足してもらえたようだ。茹でピーナッツは人気があり、二皿追加した。1時間弱の滞在時間だ。冷酒は10本以上、白ワインも5本ほどを短時間で一気に飲む。元気だ。



18:15過ぎに解散。ここから東京までまだ帰り道は長い。3名は熱海で降り、しばし飲んで帰る。お疲れさまでした。

翌日、富士急バスからの連絡で、ポーチがバスに落ちていたという。忘れた人も気が付いていたようだが、連絡を受け、回収手続きをしたとのこと。コンパクトを含め、無事に戻ったとのこと。よかった。

以上